

アカエリマキキツネザルの腸炎日和見感染からの環境改善と原因の考察

山田晃代, 百武真梨子, 川寄立太
(横浜市立野毛山動物園)

野毛山動物園で飼育中のアカエリマキキツネザル(*Varecia rubra*)において2020年12月27日に展示場にて粘血便がみられ, その粘膜便を検査したところ, 酵母様真菌を発見した. その後2021年1月1日から3日間で雄2頭, 雌2頭が相次いで腸炎により死亡した. 2021年1月2日に展示中の個体すべてを入院させ, 糞便検査を行うも, 検出されたものは酵母様細菌の他にジアルジア原虫で, これらは以前から常在しているものであった. また微生物検査でも病原性の高い細菌等は検出されず, そのため, この腸炎は日和見感染によるものと判断した. 冬季に起きたため, 飼育頭数や個体間関係から, 寒さ対策として, 暖をとれる巣箱の数を見直し, 展示場にコルツヒーター付きの巣箱を2台, ヒーター機能のない巣箱を1台増設した. その他, 使用されていなかった離れの小屋の床暖房や暖房器具の電気容量を見直し, 使用できるように改善した. また, 秋季より始まる繁殖期の様子から, 食欲減退のため起こる体重減少などが日和見感染を起こした原因と推察し, 今後の対応を考察した.